

温泉気候物理医学学会にて「体感音響が与える体と心への影響」を発表 2011.5.13-14



サウンドヒーリング協会前理事長で現在アドバイザーの勝木道夫先生(医療法人勝木会理事長)の推薦により第76回日本温泉気候物理医学学会(鹿児島)にて「体感音響が与える体と心への影響」と題し学会発表を致しました。体験ブースでは長崎、下関、名古屋から応援に駆けつけたセラピスト達が多くの方々にサウンドヒーリングのデモンストレーションを行いました。翌日には集まったセラピストの方を対象に座ったままできる「災害用サウンドヒーリングトリートメント」のブラッシュアップ研修も行われました。

発表内容：体感音響が与える体と心への影響

サウンドヒーリング協会理事長 喜田圭一郎
昭和大学名誉教授 中村泰治

- 要 旨** 音は情報を持つ振動エネルギーである。空気中を秒速340mで伝わる音も水や固体の中では4倍以上も早く伝わる。約70%の水と骨で構築されている人体に対する音の影響は極めて大きい。糸川英夫博士の発案から始まり喜田らが考案した小型体感音響は良質の音響振動を体に伝え体液と共鳴し全身の細胞を活性化し心身は正常に整うことが期待される。
- 目 的** 小型体感音響の利用者の感想に体が軽くなった、化粧がのりやすくなった、足のむくみがとれた、手足が温くなった、など体の代謝に関する報告が数多く見られる。顔面の水分量、掌と足の温度変化からみた体感音響が与える体への影響と心理テストから見た心への影響を探索。
- 方 法** 体感音響による施術の前後で抹消体温、水分保湿量を測定しその変化を見る。心理テストによる心理不安の軽減度を測定する。
- 成 果** 顔面の水分量は平均値で32.7%から40.4%へと増加し、掌の温度は29.67度から31.42度、また足の温度は親指の平均値で21.8度から24.3度と上昇した。心理面も39.52 から28.28と状態不安が軽減した。
- 考 察** 体感音響の音波がマッサージ効果を生み、体の体液や血液に響き、代謝が良くなったと推測する。代謝が向上することで抹消体温が向上し、心の安心感も増えたと推測する。ウェルネスな人生の創造に貢献する可能性を示唆しているといえる。



▲体感音響発表



▲CD 書籍販売コーナー



▲霧島にてブラッシュアップ研修も開催



▲災害用コース 実技研修



▲体験ブース

Infinite Possibility

第5回サウンドヒーリング研究会 2011.11.6

テーマ「自発的治癒力を発揮する」未来医療への架け橋
開会のことば：サウンドヒーリング協会会長 中村泰治(昭和大学名誉教授)



開会の言葉：中村泰治

昨年のサウンドヒーリング研究会の際に、私は「今年はサウンドヒーリング協会が大発展して行く初めの年だ」と申し上げました。そのとおり昨年から今日に至るまで、協会は多くの意義ある活動をし、発展を遂げて来ました。その発展の基となっているものは、昨年協会が掲げた協会の目標とその方法です。その目標とは、人々に喜びと平和をもたらすこと、その方法とは皆様ご存知の3つ方法です。この3つの方法は事実、精神的、肉体的の各種類の心と体の不調の状態に、不思議なほど優れた効果を確実にもたらしています。我々のサウンドヒーリングメソッドは個々の病を治すというより、それ以前に、根本から体の状態を良くし、その結果として心と体の不調の方も好転して行くというものだからです。

私は少しでも多くの方が自立した平和な人に早くなって欲しいと心から願っています。協会は今、福島の被災者やその救護活動をしておられる方々にサウンドヒーリングによる支援を行って大変喜ばれております。現代の社会は今ほど、我々のサウンドヒーリングの力を求めている時はないと思います。私たちの使命は大きいと思います。

協会は益々セラピストの数を増やすことが必要であると痛感しています。そしてセラピスト同志や協会がさらに連携を密にした体制を作り、セラピストがもっと良く活躍できる状態にして行くことが重要であると考えております。

皆様、みんなで手をつないで協力し合い、活動して行きましょう。

第5回サウンドヒーリング研究会

▶特別講演：『田園調布 長田整形外科 院長 長田夏哉先生』



これまでの経験から、病気や不具合を取りのぞこう、というアプローチは長く機能しないことに気がつきました。ひとつの問題を治癒すると新たな異なる問題が表面化することにも気がついていました。おそらくそれは、ウェル・ビーイング(well-being)、つまり、身体的・精神的・社会的健康の源が自分自身に備わっている、と教えられていないからです。

真の健康とは、ただ単に健康でないという受身の状態ではありません。私たちが身体的・精神的・社会的に心穏やかで幸せであると感じられるときにウェル・ビーイングであるといえるのではないのでしょうか。

今までの主流医学のパラダイムは、人は部品の総体である、という考えを基にしています。しかし、私たちはただ単に部品が寄り集まっているだけの存在ではありません。感情や思考も高度に発達していますし、意識についても科学的に研究されている時代に生まれています。

これからは、身体(BODY)・こころ(MIND)・意識(SPIRIT)全体をみていく、新しいパラダイムが主流となります。当院では、今までのよき流れの上に、新しい流れを重ねることで、関わるすべての人にも、地球にも、善き選択をし続けるように最大限の努力をしていきます。自分に生じていること(サイン)を自分のこととして引き受けるという姿勢をもつことで、私たちは新たな視点を得ることができます。

そして、そのためのアドバイスこそが私たちの『田園調布 長田整形外科』の考える医療で、不具合や病気を助長させることなく、ひとりでも多くの方に「より健康に」「より幸福に」になっていただくことを第一の使命と考えています。

▶活動報告 坪内さん兄弟



▶活動報告 藤本梨恵さん



▶声を出すワークショップ



▶販売コーナー スタッフ

